

4 子どもたちのアイデア等を活かした公園づくり構想



神戸 美由起
KANBE Miyuki

株式会社オリエンタルコンサルタンツ/九州支社
総合計画部/技師

ユニバーサルデザインやインクルーシブな公園。様々な概念がありますが、重要なことは地域のみんなと一緒に考えることのようにです。子どもたちと未来の公園を思い描いた事例をもとに、一緒に考えるための方法を紹介します。

品川区における子どもたちとの公園づくり

品川区では「区民と区の協働で『わたしたちのまち』品川をつくる」という品川区基本構想の理念に基づき、平成20年度に「子どもたちのアイデア等を活かした公園づくりワークショップ」を開催し、子どもたち自身が様々な議論と検討を行い、広く区民に愛される公園として整備するための計画案づくりを行いました。これらの計画案を基に、品川区立鮫洲運動公園をはじめ、区内の複数の公園で子どもたちのアイデアを取り入れた公園整備が進められてきました。

「子どもたちのアイデア等を活かした公園づくりワークショップ」から10年が経過し、今回改めて区内の小学生を対象にワークショップを開催しました。今回のワークショップは、子どもたち自身が公園を計画するというコンセプトを引き継ぎつつ、障がいをもつ子どもたちも

楽しめるユニバーサルデザインに配慮された公園を整備するためのアイデアを、子どもたちと一緒に考えることが事業の主題でした。

本稿では今回携わらせていただいた子どもたちと考える公園づくり、ユニバーサルデザインに配慮した公園づくりについて、ひとつのケーススタディとしての取り組み内容を紹介するとともに、私自身の反省点や今後の課題として挙げられる点をまとめます。

「ユニバーサルデザイン」と「インクルーシブな公園」

「ユニバーサルデザイン」は明確な定義が示され、私たちの日常生活にもその考え等は浸透していますが、「インクルーシブな公園」については、国内では明確な定義はまだ示されておらず、共通の認識や理解は未定着で、私自身も品川区での取り組みを通じて学んでいる



子どもたちのアイデアを活用して整備された鮫洲運動公園 鮫洲運動公園内にある手形モニュメント



令和元年度のワークショップ実施内容

回数	実施時期	開催場所	目的	実施内容
第1回	10月27日	区役所	お互いのことを知る、アイスブレイク、遊びのタイプを見つける	・自己紹介 ・遊びマップづくり
第2回	11月17日	区役所	人の多様性及び多様なニーズがあることに気付く	・特別支援学校へのインタビュー
第3回	12月15日	二子玉川公園、区役所	公園に含まれる様々な工夫に気付く	・先進事例公園の見学 ・障がい疑似体験
第4回	1月19日	区役所	ユニバーサルデザインの観点を学ぶ	・レクチャー ・アイデアカード作成
第5回	2月9日	区役所	子どもたちによるアイデア出し	・アイデアカードを基にした公園計画案の模型作成

概念です。そのため「インクルーシブな公園」とは、つくられる空間が「ユニバーサルデザイン」であることのみでなく、検討過程において設計者と当事者が一緒に考えることが基本であると理解しています。

本取り組みでは検討における基本思想としての「インクルーシブ」、つくられる空間としての「ユニバーサルデザイン」を事業のポイントとして進めてきました。

「気付き」に重点を置いたワークショップ

ワークショップの参加者は区立小学校に通う3～4年生とし、抽選で参加者を決定しました。ワークショップでは子どもたち自らが気付くことに重点を置き、「知る・学ぶ」「体験する」「考える」の3視点からワークショップの実施内容を組み立てました。近年は、総合学習の一環等でユニバーサルデザインを学ぶ機会もありますが、当事者の声を聞くことや実際に自分で体験することを通じて子どもたちの自由な発想を引き出し、ユニバーサルデザインに対する気付きを与えることを重視しました。

第2回ワークショップでは「知る・学ぶ」機会

として、東京都立品川特別支援学校に協力頂き、支援学校の様子や児童・生徒が好きな遊び、苦手なこと等をクイズ形式で学びました。例えば、順番待ちが苦手な子、大きな音が苦手な子もいること等に対して、どんな工夫があったら公園で遊びやすいかを子どもたちに考えてもらいました。他の人のことを考え、どんなことができると良いか、どんな工夫があったら楽しいか、子どもたちからは皆で楽しめるようなアイデアが数多く出ました。

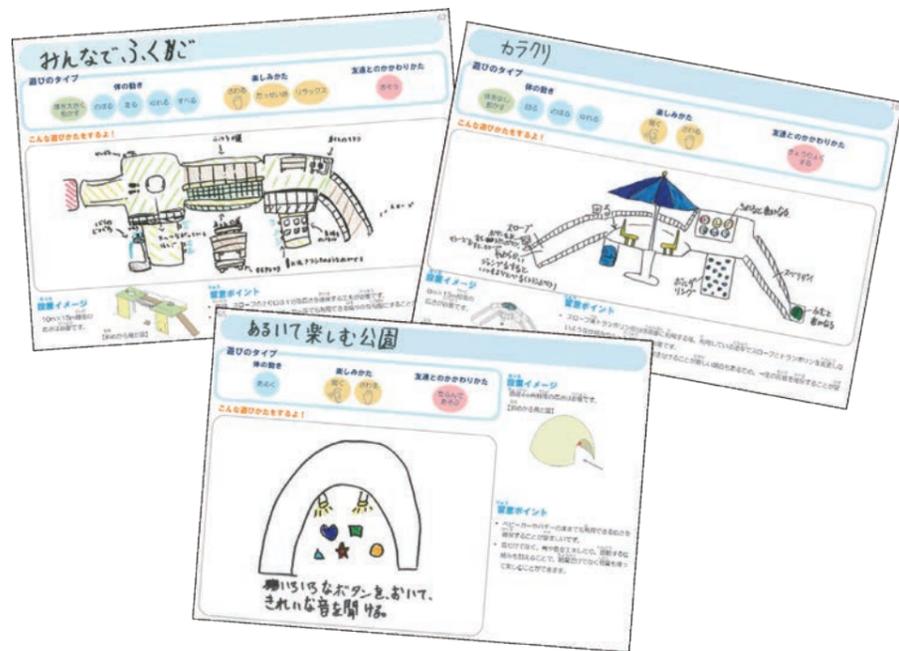
第3回ワークショップでは「体験する」機会として、東京都世田谷区の世田谷区立二子玉川公園で障がい疑似体験（車いすやアイマスク）を行い、実際に公園でど



アイマスク体験のようす (第3回ワークショップ)



車いす体験のようす (第3回ワークショップ)



子どもたちが描いたアイデアカード例（第4回ワークショップ）

んなことができるか、どんな工夫ができれば楽しいか、体験しながら子どもたちに考えてもらいました。この公園には車いすでも利用できる机タイプの砂場や、水遊び場があります。子どもたちからは、各遊具の寸法等の細かい点やこんなところが危ない等、幅広い気付きやアイデアが出ました。

第4回ワークショップでは「知る・学ぶ」と「考える」機会として、インクルーシブな公園づくりを目指す市民グループ「みーんなの公園プロジェクト」に協力頂き、海外のインクルーシブな公園事例を紹介頂くとともに、公園づくりのポイントを学びました。

また、障がいを持つ保護者や子どもたち、外国から来た親子等、第2～3回のワークショップで網羅できていない多様な公園利用者に関しても、普段感じていることをメッセージとして紹介し、どんな工夫があれば公園を利用しやすいか、子どもたちに考えてもらいました。ワークショップ後半は、第2～3回のワークショップで考えたアイデアやインクルーシブな公園づくりのポイントを参考に、どんな遊具があったらみんなで一緒に遊べるか、どんな公園であればより楽しい公園となるか、子どもたちにアイデアカード形式でまとめてもらいました。

第5回ワークショップでは、グループに分かれてアイデアカードをもとに公園計画案を作成しました。公園全体を「みんなのあそびば」「わくわくゾーン」「見守りゾーン」「休憩ゾーン」の4つに分け、遊具以外の休憩施設も

配置するよう、意識付けを行いました。全体のゾーンは共通でしたが、各グループからは特色あふれる公園計画案が出ました。

障がいを持つ子どもたちの参加

本ワークショップでは、検討過程から当事者の参加をポイントとしていたため、障がいを持つ子どもたちの参加について、品川区担当者や特別支援学校、児童発達支援事業所の方等に意見を伺い調整し、第4～5回のワークショップでは都立品川特別支援学校の生徒に参加頂きました。参加に向けた調整の中では、新しい環境が苦手な児童・生徒が多いこと、自身の意見を発言したりアイデアを考えることが難しい児童・生徒も多いこと等が課題として挙がりました。また、新しい環境でアイデアを発表できる一部の児童・生徒を抽出してワークショップに参加して頂いても、様々な障がいの実態が見えづらくなってしまふ（個人差があることが分かりづらい）ことが課題として挙がりました。

ワークショップ当日は保護者同席のもと、児童・生徒が遠慮することなく意見を出しやすい場を設けるよう配慮しました。しかし、グループ内の話し合いでは、発言を遠慮してしまう場面もありました。その点は、ひとりひとりの性格や特性を踏まえてグループ分けを行うことや、スタッフ配置の工夫により改善を図ることができると考えています。



子どもたちが作成した公園計画案の模型（第5回ワークショップ）

子ども「以外」の公園利用者

ワークショップ参加者は小学校3～4年生を対象としましたが、公園には様々な年齢の利用者がいます。ワークショップ参加者以外の利用者の声や、障がいを持つ方々の意見を伺うため、ワークショップと並行して、子育て支援団体や児童発達支援事業所にも協力頂き、利用者または保護者のアンケートと職員に対するヒアリングを行いました。そして、人気がある遊びや普段の公園利用の仕方、どんな点に問題があると感じているか等を調査しました。その結果、ワークショップでは得られなかった休憩施設や出入口に対する工夫等、遊具以外での気付きを多く得られました。また、知的障がい、身体障がい、発達障がい、視覚障がい、聴覚障がい等、それぞれの子どもたちの特性の違いや求めること、公園利用の仕方等を実際に聞くことができました。

設計や導入にあたっての課題

本取り組みをベースとして、現在、品川区立大井坂下公園において設計を行っています。設計における課題は大きく2点あると感じています。1点目が子どもたちのアイデアの具現化で、2点目がユニバーサルデザインに配慮した遊具の導入です。

1点目に関しては、子どもたちのアイデアをそのまま踏

襲することが最適であることは前提ですが、実際には実現性のある公園のスケールや安全面等から難しい場合があります。そのため、子どもたちのアイデアで表現されたこと、子どもたちがアイデアで示したことの要素を取り入れることに視点を置きました。

2点目に関しては、導入事例の少なさ等から、安全性の確保（事故発生時の想定等）が課題として挙げられます。遊具メーカー等にも協力してもらいながら安全検証を行うことや、海外遊具メーカーへのヒアリング等を通じて、導入遊具の安全性を確保していくことが課題です。

現在進行形で最適である解決策を模索しつつ、子どもたちが喜ぶ公園改修の実現を目指しています。

多様な方々の参画を願う

都内では今回の事例以外にもインクルーシブな公園づくりが進められていますが、整備された公園を利用して初めて分かることや気付くこともあります。国内のインクルーシブな公園づくりは、まだ発展途上にあると認識しています。ひとつひとつの取り組み内容や検討内容を蓄積し、インクルーシブな公園づくりがより充実すること、公園づくりに多様な方が参画することを願います。